

量子コンピューティングの基礎

内藤壮俊

大学院情報理工学系研究科 電子情報学専攻
長谷川研究室 博士3年

2025/10/27 @ UTokyo Qiskit Fall Fest 2025 事前講習会

おしながき

量子ビットと触れ合おう

- 量子ビットの表現
- 量子状態の測定
 - Exercise 1: 量子状態を可視化してみよう
- 量子状態の操作: 量子ゲート・量子回路
 - Exercise 2: 量子ゲートを合成してみよう

量子系と触れ合おう

- N qubitの量子状態
- 制御ゲート
 - Exercise 3: 重ね合わせ状態を作ってみよう
 - Challenge: 重ね合わせ状態を作ってみよう

量子ビットと触れ合おう

古典ビット (bit) と量子ビット (qubit)

古典ビット (bit)

- 0 もしくは 1 のいずれかの値に確定する $\in \{0,1\}$
- 中間状態は無い

量子ビット (qubit)

- $|0\rangle$ 状態と $|1\rangle$ 状態が存在する
- $|0\rangle$ 状態と $|1\rangle$ 状態の重ね合わせも取れる $\in \mathbb{C}^2$
 - $|\alpha|^2 + |\beta|^2 = 1$ を満たす複素数 α, β に対し
 $|\psi\rangle = \alpha |0\rangle + \beta |1\rangle$ という状態を取れる

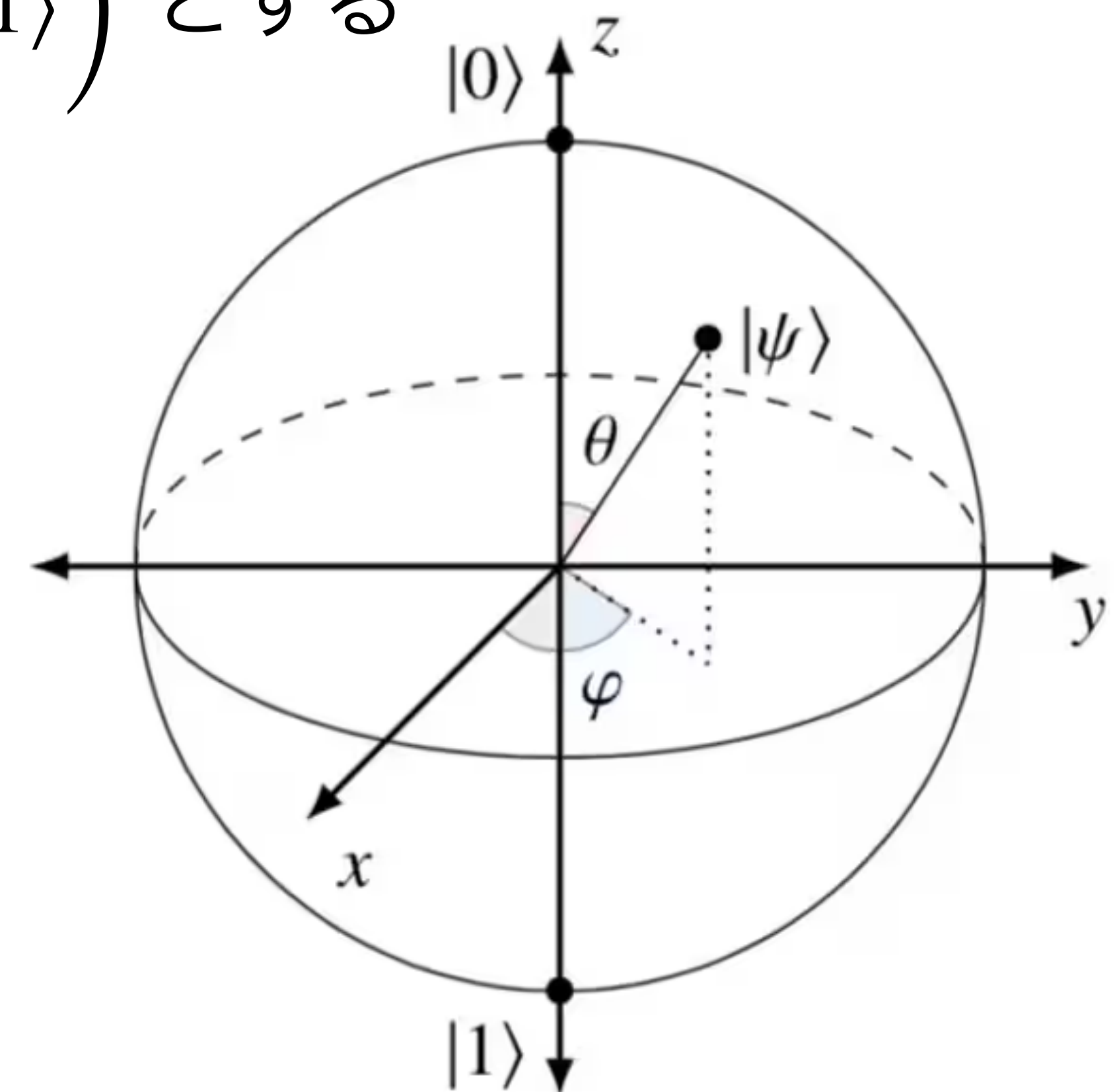
ブロッホ球による量子状態表現

区別可能な量子状態

- ・ $|\psi\rangle = \alpha |0\rangle + \beta |1\rangle = e^{i\lambda} \left(\cos \frac{\theta}{2} |0\rangle + e^{i\phi} \sin \frac{\theta}{2} |1\rangle \right)$ とする
- ・ この時、 λ は区別できず、 θ, ϕ のみ区別可能

ブロッホ球 (Bloch Sphere)

- ・ 量子状態を球面上の一点として表現したもの
- ・ 北極が $|0\rangle$ 状態、南極が $|1\rangle$ 状態
- ・ ブロッホ球上で同じ点 = 同じ状態



量子状態の測定

ボルの法則

- ・ Z基底 ($|0\rangle, |1\rangle$) で測定すると、量子状態は $|0\rangle$ または $|1\rangle$ に変化する
- ・ $|\psi\rangle = \alpha |0\rangle + \beta |1\rangle$ の場合、確率 $|\alpha|^2$ で $|0\rangle$ 、確率 $|\beta|^2$ で $|1\rangle$ になる

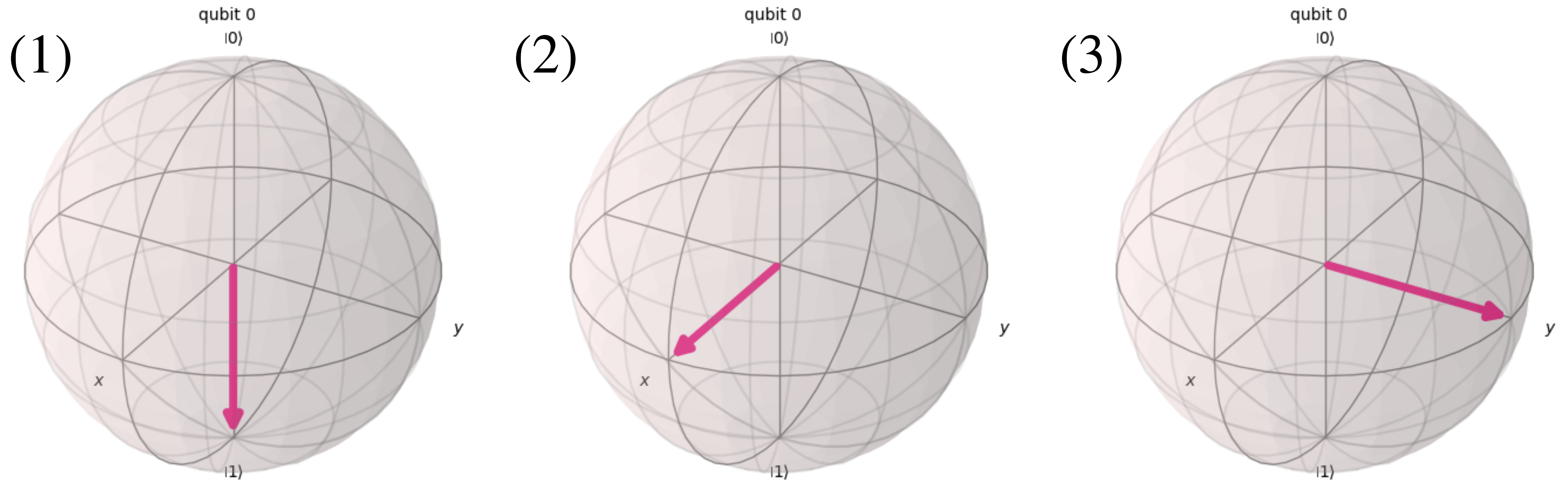
直感的には「近い状態ほど出やすい」

測定の例

- ・ $|0\rangle$ を Z基底で測定すると、100%の確率で $|0\rangle$ が出てくる
- ・ $|+\rangle = \frac{|0\rangle + |1\rangle}{\sqrt{2}}$ を Z基底で測定すると、50%の確率で $|0\rangle / |1\rangle$ が出てくる
- ・ $0.6 |0\rangle - 0.8i |1\rangle$ を Z基底で測定した場合は…？

Exercise 1: 量子状態を可視化してみよう

以下の画像は、それぞれ何の量子状態を表しているでしょうか？



状態操作の表現: 量子ゲート・量子回路

量子ゲート

- 量子状態を別の状態に変える操作

$$\alpha |0\rangle + \beta |1\rangle \rightarrow \alpha' |0\rangle + \beta' |1\rangle$$

- 数学的にはユニタリ行列として書ける

$$\begin{pmatrix} \alpha' \\ \beta' \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u_{00} & u_{01} \\ u_{10} & u_{11} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \alpha \\ \beta \end{pmatrix}$$

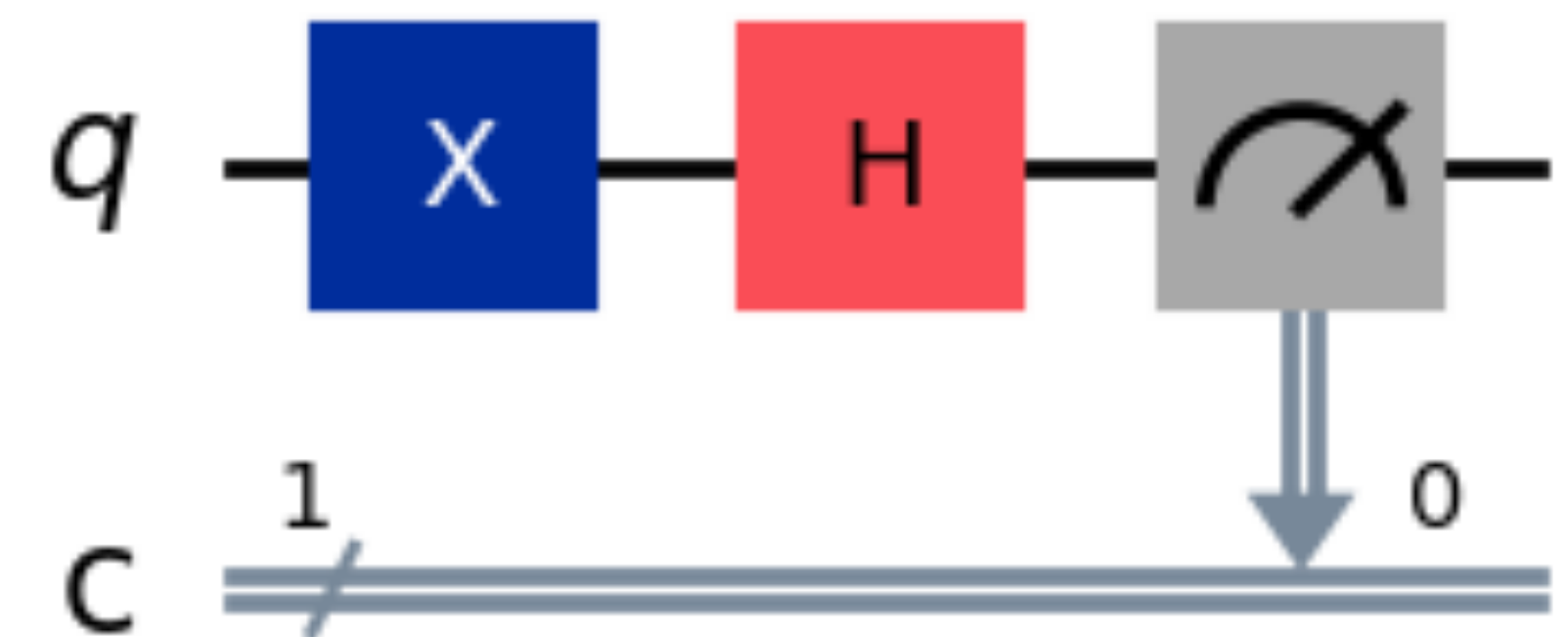
$$|\psi\rangle = U |\psi_0\rangle$$

- ブロッホ球を動かす操作としても解釈できる
 - 回転操作 / 反転操作 など

量子回路

- 量子ゲート操作を視覚的に表現したもの

- 量子ビット = ワイヤー
- 量子ゲート / 測定 = ブロック



量子ゲートの例: パウリ (Pauli) ゲート

Xゲート (= X軸180°回転)

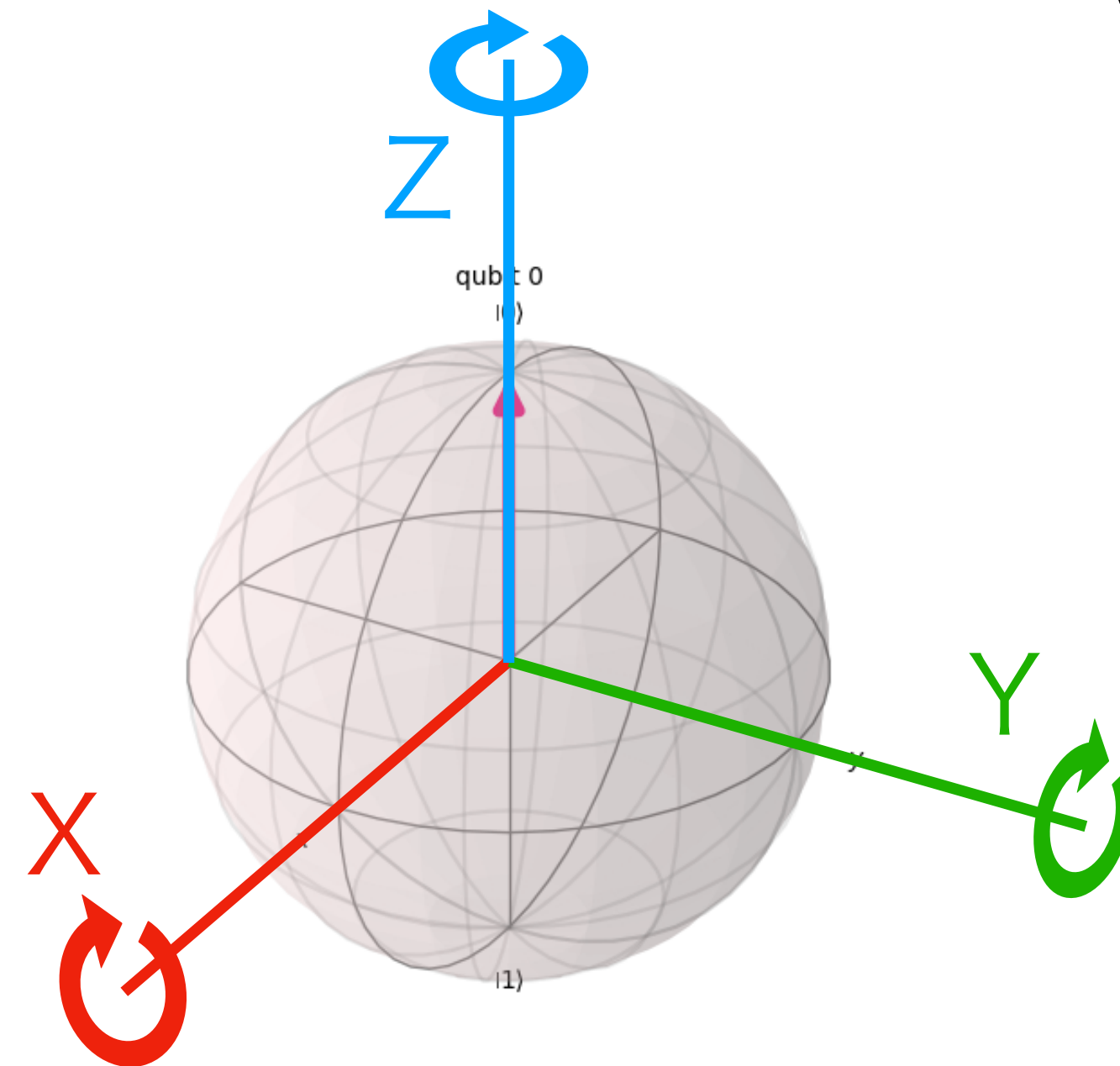
- ・ $|0\rangle$ 状態と $|1\rangle$ 状態を入れ替える量子ゲートで、行列表示は $X = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$

Yゲート (= Y軸180°回転)

- ・ 行列表示は $Y = \begin{pmatrix} 0 & -i \\ i & 0 \end{pmatrix}$ となる

Zゲート (= Z軸180°回転)

- ・ $|1\rangle$ 成分を-1倍する量子ゲートで、行列表示は $Z = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{pmatrix}$



量子ゲートの例: 回転ゲート

R_x ゲート (= X軸回転)

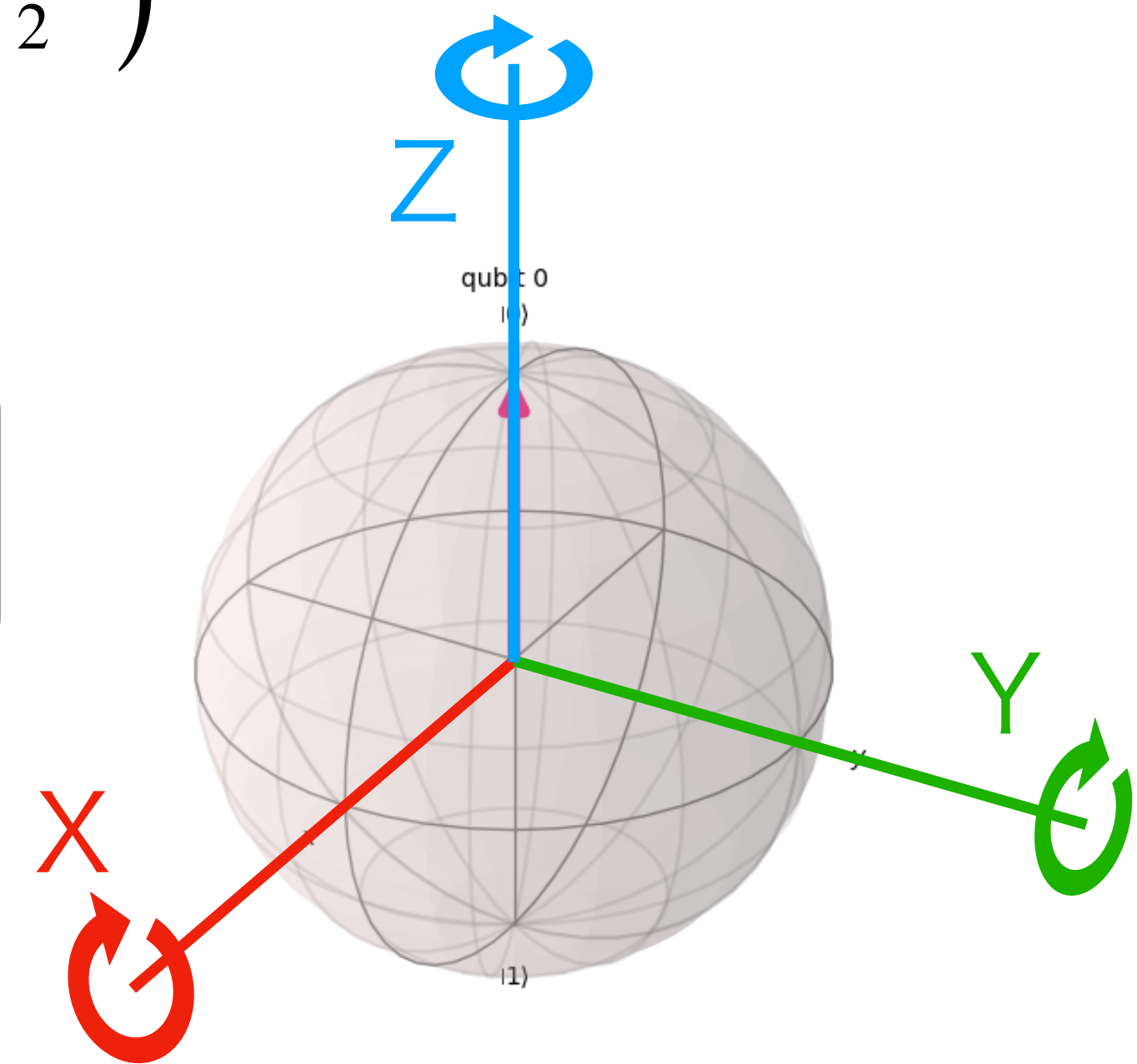
・ 行列表示は $R_x(\theta) = e^{-i\theta X/2} = \cos \frac{\theta}{2} I - i \sin \frac{\theta}{2} X = \begin{pmatrix} \cos \frac{\theta}{2} & -i \sin \frac{\theta}{2} \\ -i \sin \frac{\theta}{2} & \cos \frac{\theta}{2} \end{pmatrix}$

R_y ゲート (= Y軸回転)

・ 行列表示は $R_y(\theta) = e^{-i\theta Y/2} = \cos \frac{\theta}{2} I - i \sin \frac{\theta}{2} Y = \begin{pmatrix} \cos \frac{\theta}{2} & -\sin \frac{\theta}{2} \\ \sin \frac{\theta}{2} & \cos \frac{\theta}{2} \end{pmatrix}$

R_z ゲート (= Z軸回転)

・ 行列表示は $R_z(\theta) = e^{-i\theta Z/2} = \cos \frac{\theta}{2} I - i \sin \frac{\theta}{2} Z = \begin{pmatrix} e^{-i\theta/2} & 0 \\ 0 & e^{i\theta/2} \end{pmatrix}$



量子ゲートの例: アダマールゲート

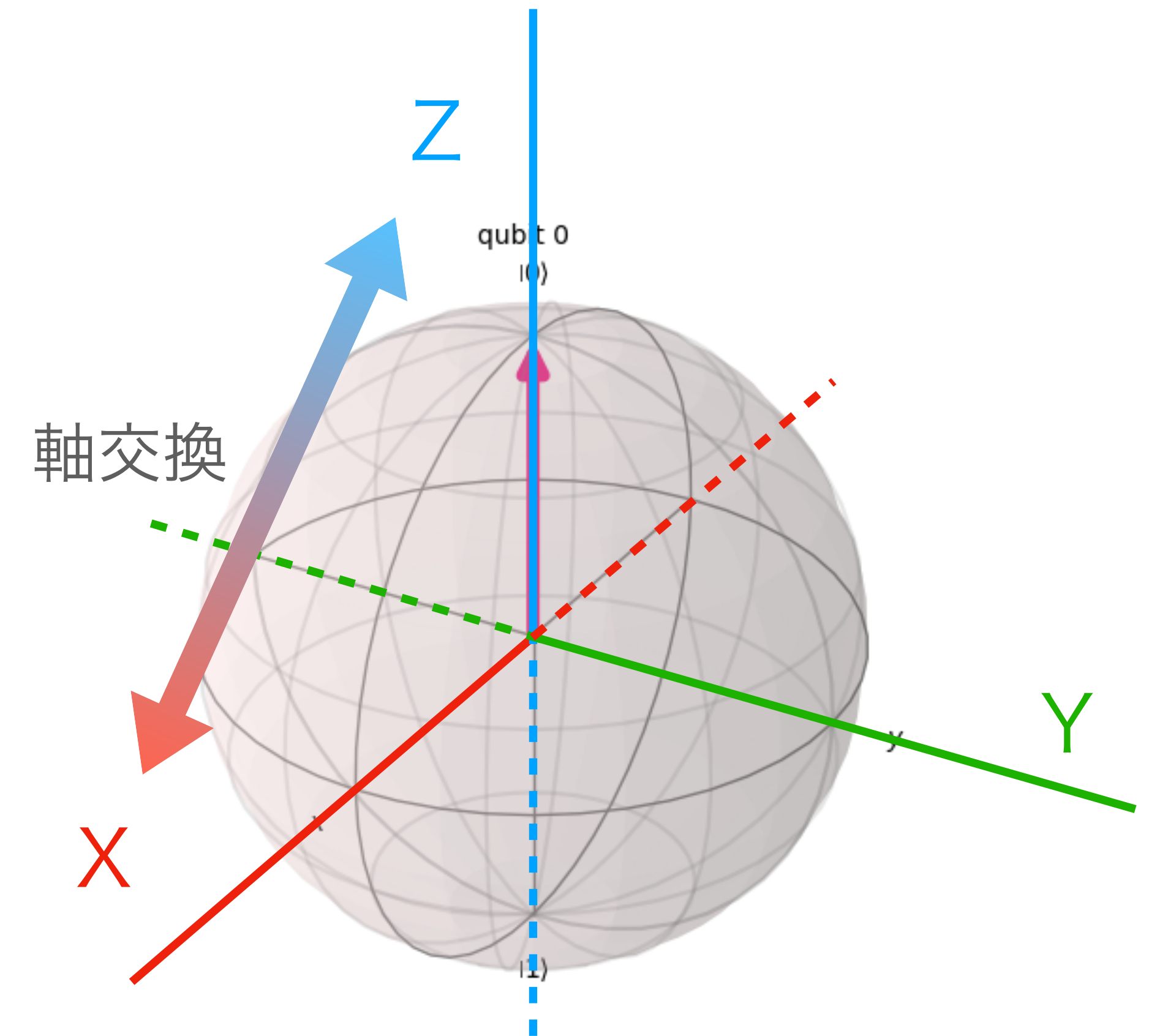
軸ごとの基底状態

- ・ X基底: $|+\rangle = \frac{|0\rangle + |1\rangle}{\sqrt{2}}$ 状態 と $|-\rangle = \frac{|0\rangle - |1\rangle}{\sqrt{2}}$ 状態
- ・ Y基底: $\frac{|0\rangle + i|1\rangle}{\sqrt{2}}$ 状態 と $\frac{|0\rangle - i|1\rangle}{\sqrt{2}}$ 状態
- ・ Z基底: $|0\rangle$ 状態 と $|1\rangle$ 状態

アダマール (Hadamard) ゲート

- ・ Z軸とX軸を入れ替える働きを持つ

行列表示は
$$H = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$$

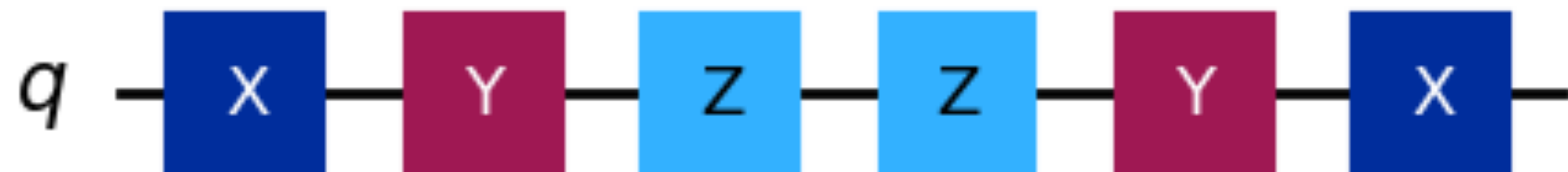


Exercise 2: 量子ゲートを合成してみよう

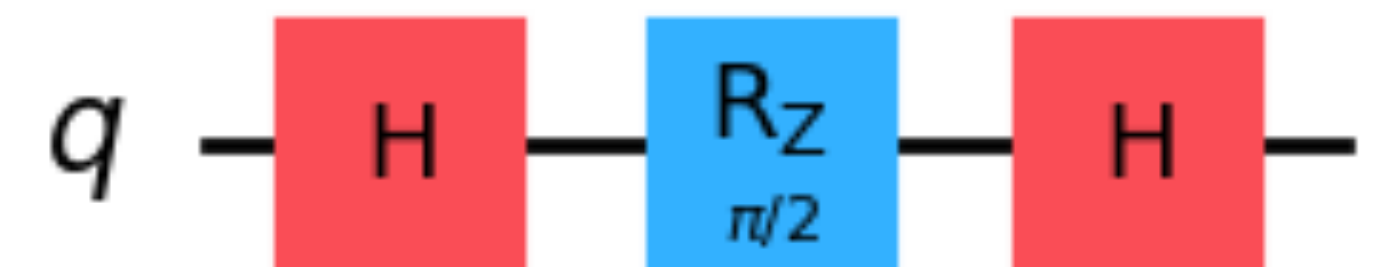
以下の量子回路をQiskitで書いてみましょう

- ・ $|0\rangle$ 状態を入力した時の出力はどうなりますか？
- ・ 余裕のある人は、これらの量子回路をシンプルな形にしてみましょう

(1)



(2)



[Hint]

回転角を指定する際は

`import numpy as np`

した上で `np.pi / 2` としてください

量子系と親しもう

N qubitの量子状態

量子回路のワイヤーは1本からN本に

N qubit系の基底の個数

- N qubitの量子系は、 2^N 個の基底を持つ
- 例えば5 qubitなら $|00000\rangle, |00001\rangle, |00010\rangle, \dots |11111\rangle$ の32個

N qubit系の量子状態

- $|\alpha_{0\dots 0}|^2 + \dots + |\alpha_{1\dots 1}|^2 = 1$ を満たす複素数 $\alpha_{0\dots 0} \dots \alpha_{1\dots 1}$ に対して
 $|\psi\rangle = \alpha_{0\dots 0} |0\dots 0\rangle + \dots + \alpha_{1\dots 1} |1\dots 1\rangle$ という状態を取れる
- N qubitあれば、 2^N 個の複素数を格納できる $\in \mathbb{C}^{2^N}$

N qubitの量子状態を見る

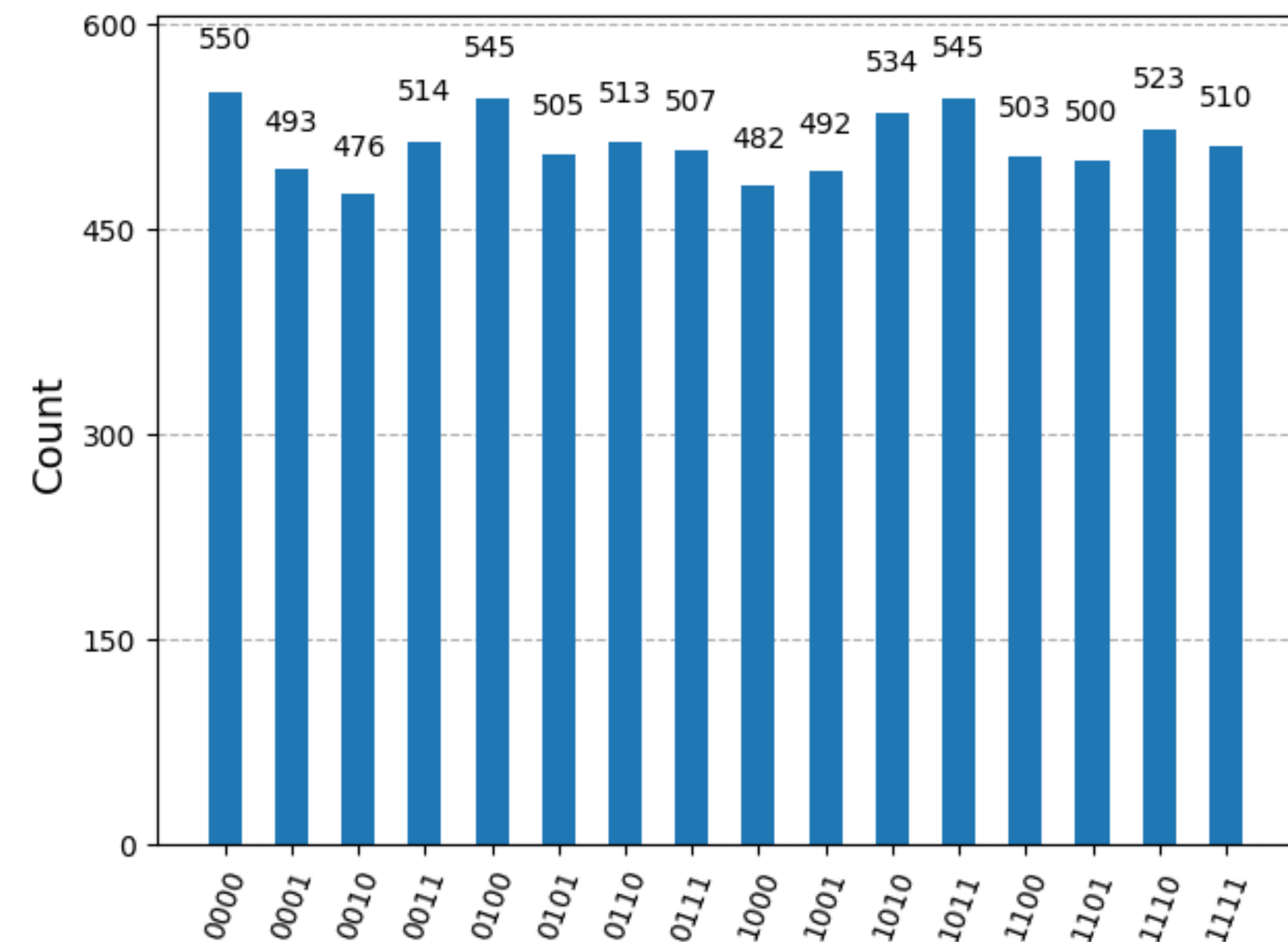
状態ベクトルによる表現

- 2^N 成分を持つ複素ベクトルを直接見ることが多い
- 例えば12番目の要素の場合 $|q_0q_1q_2q_3\rangle = |0011\rangle$ に対応する
 $= 1100_{(2)}$

Qiskitでは大きい桁が
右側に来ることに注意！

測定結果のヒストグラム表現

- シミュレータや実機の実行結果はヒストグラムとして描画できる
- 最大 2^N 本引かれるため、量子ビット数が多い場合は要注意



多量子ゲートの例: 制御ゲート

制御ビットに応じたゲート

- 制御ビットが $|0\rangle$ なら何もせず、 $|1\rangle$ の場合のみゲートを適用する

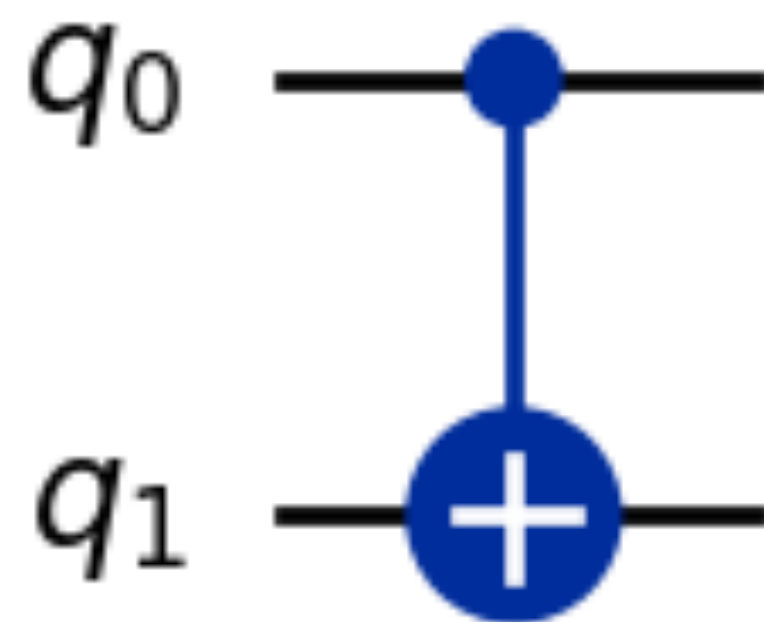
- 例: 制御Xゲート

$$CX(|00\rangle) = |00\rangle$$

$$CX(|01\rangle) = |01\rangle$$

$$CX(|10\rangle) = |11\rangle$$

$$CX(|11\rangle) = |10\rangle$$



「+」で書く
慣例があります

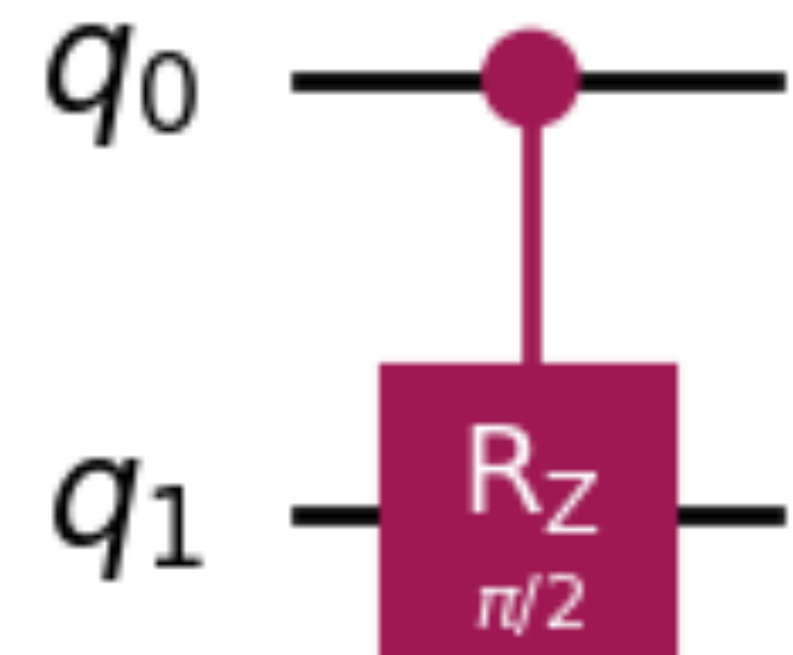
- 例: 制御 R_z ゲート

$$CR_z(|00\rangle) = |00\rangle$$

$$CR_z(|01\rangle) = |01\rangle$$

$$CR_z(|10\rangle) = e^{-i\theta/2} |10\rangle$$

$$CR_z(|11\rangle) = e^{i\theta/2} |11\rangle$$



多量子ゲートの例: 制御ゲート

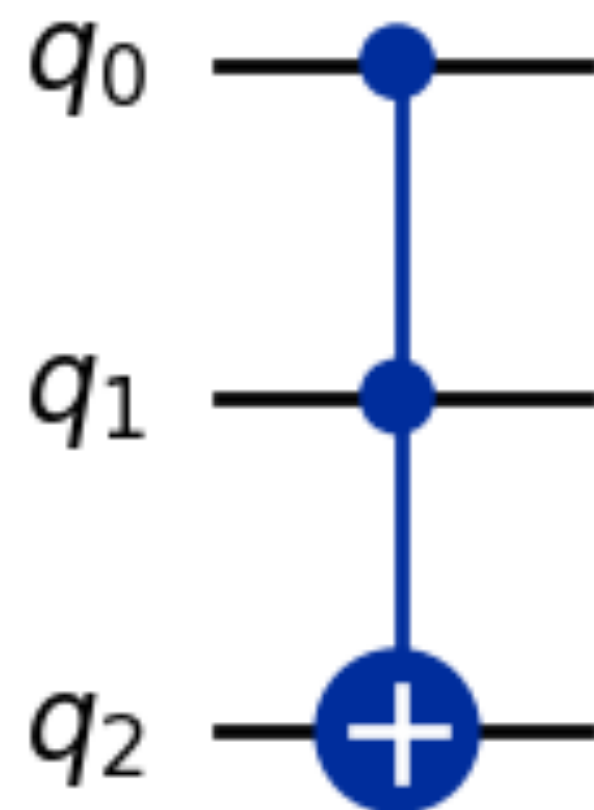
制御ゲートの応用

- ・ 制御ビットを複数持つ制御ゲートも作成可能
- ・ 制御ゲートを組み合わせることで、作れる量子ゲートの幅が広がる

- ・ 例: 多重制御Xゲート

$$\text{CCX}(|110\rangle) = |111\rangle$$

$$\text{CCX}(|111\rangle) = |110\rangle$$



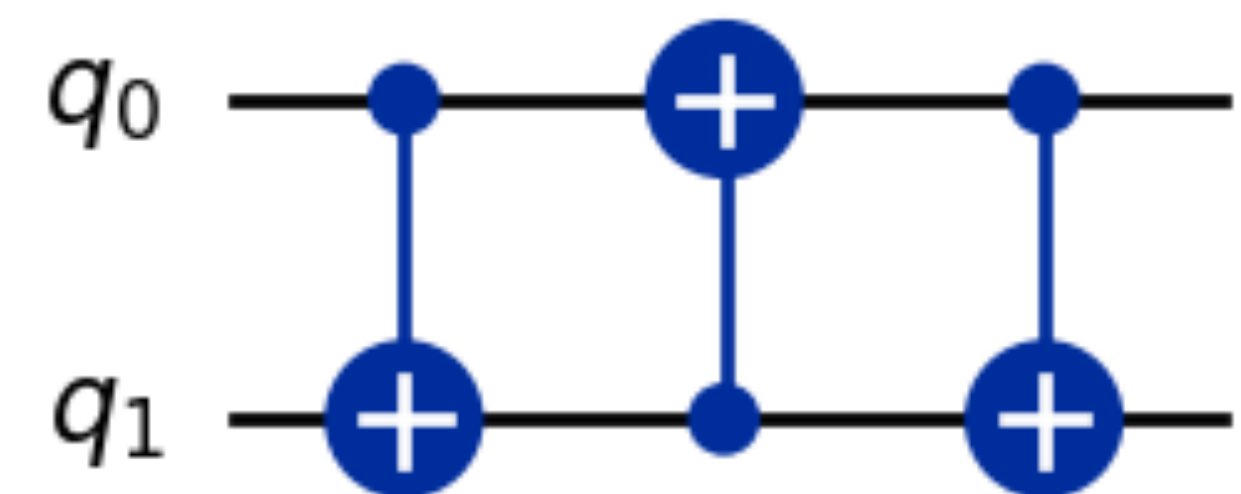
- ・ 例: SWAPゲート

$$\text{SWAP}(|00\rangle) = |00\rangle$$

$$\text{SWAP}(|01\rangle) = |10\rangle$$

$$\text{SWAP}(|10\rangle) = |01\rangle$$

$$\text{SWAP}(|11\rangle) = |11\rangle$$



$$B \leftarrow A + B$$

$$A \leftarrow A + B$$

$$B \leftarrow A + B$$

Exercise 3: 重ね合わせ状態を作ってみよう

複数の量子ビットにまたがる重ね合わせ状態を作ってみましょう

$$(1) \quad \frac{1}{4} \left(|0000\rangle + |0001\rangle + |0010\rangle + \cdots + |1111\rangle \right)$$

$$(2) \quad \frac{1}{\sqrt{2}} \left(|00\rangle + |11\rangle \right)$$

$$(3) \quad \frac{1}{\sqrt{2}} \left(|01\rangle + |10\rangle \right)$$

$$(4) \quad \frac{1}{\sqrt{2}} \left(|0000\rangle + |1111\rangle \right)$$

Challenge: 重ね合わせ状態を作ってみよう

余裕がある人は、以下の量子状態にもチャレンジしてみましょう

(1)

$$\frac{1}{2} \left(|00\rangle + i |01\rangle - |10\rangle - i |11\rangle \right)$$

(2)

$$\frac{1}{2} \left(|0001\rangle + |0010\rangle + |0100\rangle + |1000\rangle \right)$$

[Hint]

状態ベクトルの中身が

$[A, -A, iA, -iA]$

になっていれば正解です